

# 高取町の教育

令和3年度全国学力・学習状況調査結果から見える高取町の子ども

## 1 調査の概要について

### ○ 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### ○ 実施日：令和3年5月27日（木）

### ○ 調査対象とする児童生徒：小学校第6学年（53名）、中学校第3学年（46名）

### ○ 調査事項及び手法

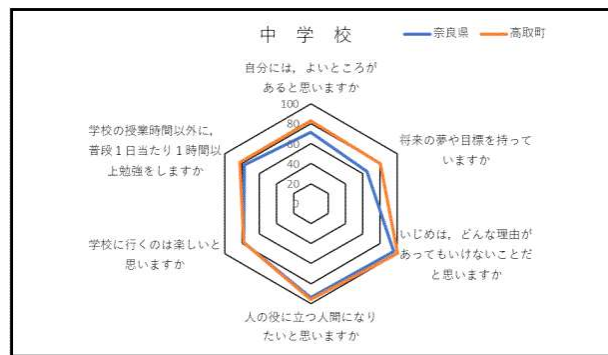
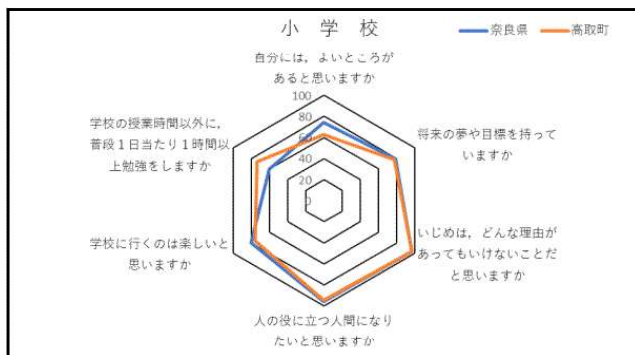
- ・ 質問紙調査：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。
- ・ 教科に対する調査〔国語、算数・数学〕

### ○ グラフの見方

- ・ グラフの数値は素点（テストの点数）ではなく、正答率（最高100%）です。
- 赤のグラフが青のグラフより大きい ⇒ 高取町の成績が県平均を上回っている。
- 赤のグラフが青のグラフより小さい ⇒ 高取町の成績が県平均を下回っている。

## 2 調査結果について

### ○ 生活習慣や学習環境等に関する調査（抜粋）

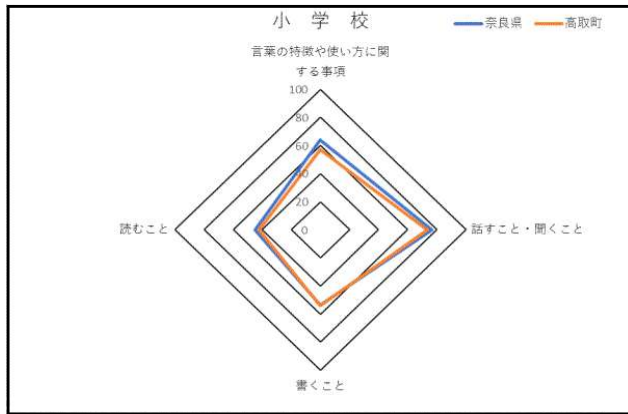


### 本町の児童・生徒のすがた

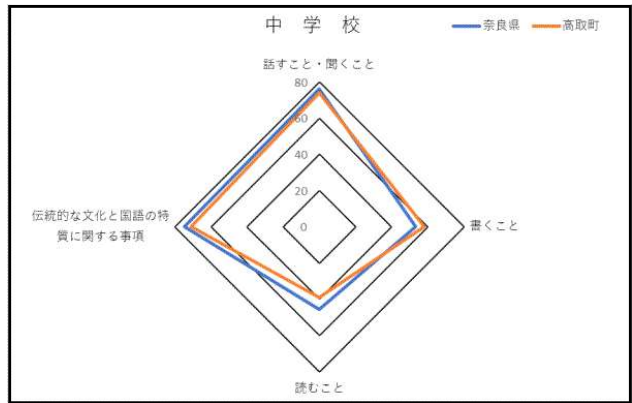
- ・ 小学校は、「自分にはよいところがあると思うか。」や「将来の夢や目標を持っているか。」の質問で県平均を下回り、自己肯定感が少し低い傾向が見られるものの、「いじめはどんな理由があってもいけないことと思う。」や「人の役に立つ人間になりたいと思う。」という項目で県平均を5ポイント以上上回る85%超の児童が回答しています。このことから、物事の善し悪しが分かり、思いやりのある優しい児童像が窺えます。
- ・ 中学校は、「自分にはよいところがあると思うか。」「将来の夢や目標を持っているか。」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか。」「人の役に立つ人間になりたいか。」「学校に行くのは楽しいと思うか。」の項目については県平均を上回っています。また、「学校の授業時間以外に普段1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。」という問いに対して、1時間以上勉強すると答えた割合は県平均を上回っています。上記の結果から自身の将来像に明確な目標を持ち、正邪善悪の判断がきちんとできる生徒像が窺えます。また、学習習慣が身につけている生徒が多いことがわかります。

○ 学力に関する調査

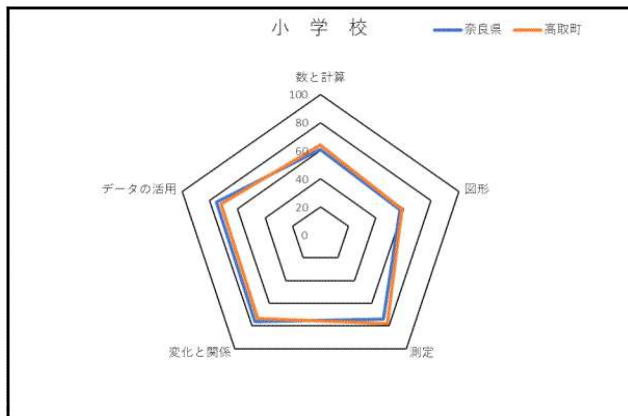
国語



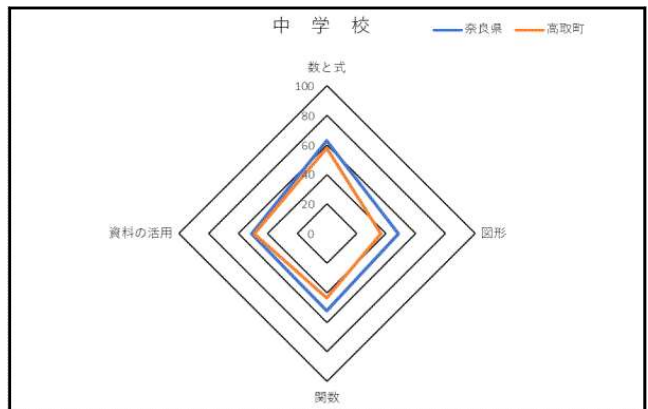
国語



算数



数学



本町の児童・生徒のすがた（学力）

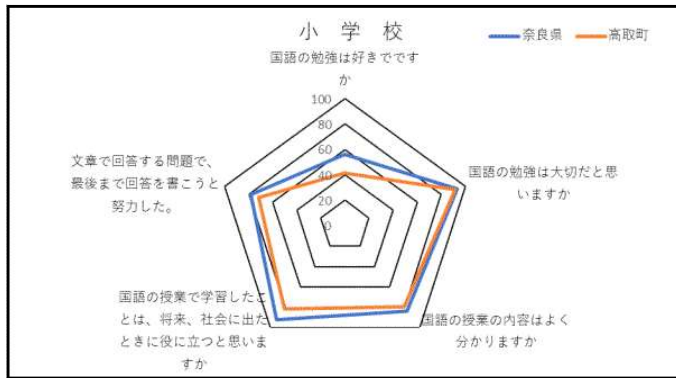
- 小学校の国語は4領域中、「書く」の1領域は県平均を少し上回りましたが、その他の「話すこと・聞くこと」、「読むこと」、「言葉の特徴や使い方に關する知識及び技能」の3領域において、県平均を少し下回りました。全ての学習の基礎となる国語力を鍛え向上させていくことが、今後も課題となります。
- 小学校の算数は5領域中、「数と計算」、「図形」、「測定」の基礎学力的な3領域については県平均を少し上回り、「変化と関係」、「データの活用」の応用的な2領域で県平均を少し下回りました。算数的な基礎学力の強さを生かすための応用力を高めていくことが、今後の課題であると考えられます。
- 中学校の国語は、全般的に県平均を下回っています。「書くこと」は県平均を上回っているものの、その他の分野は県平均を下回っている現状です。特に「読むこと」に課題が見られます。
- 中学校の数学は、全般的に県平均を下回っています。特に「図形」の分野において大きな課題が見られます。

3 課題に対する改善方法

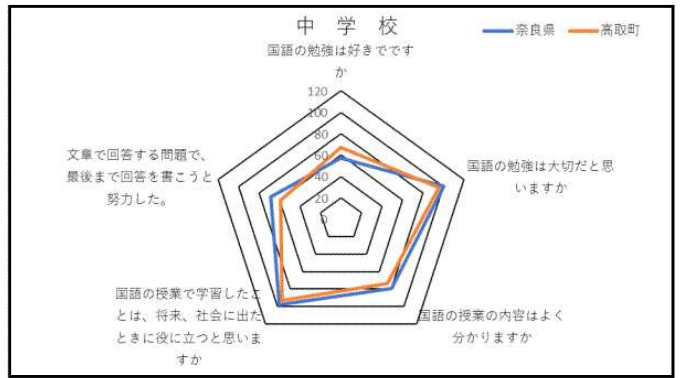
- 小学校は、算数科において、基礎・基本的な知識技能の向上を図るため継続してきた「朝学習」の成果が少し現れてきており、今後も取組を継続していきます。また国語科においては、「朝学習」だけでなく、国語の授業や学校行事全般を通して、人と関わる機会を増やしていくことで、表現豊かなコミュニケーション能力を高めていける取組を充実させるような工夫を研究していきます。
- 小学校は、「生活習慣・学習習慣」に關する意識は、県平均を上回っており、今後もさらに家庭と学校とが協力しながらよりよい習慣づくりに取り組んでいきます。また、「自己肯定感」に關する意識が県平均を下回っているため、学校や家庭、地域での様々な生活場面において、周囲の大人や教師が、子どもたちのよいところを見つけ、そのことを認めてしっかり褒めていくことを心がけていきます。
- 中学校は、国語においては毎日行っている朝読書の時間や国語の授業を中心に学校活動の様々な場面で国語力の向上を図っていきます。また数学では応用力への課題が見られるため、生徒の数学への関心・意欲を更に高め、数学の応用力の向上を図っていきます。
- 中学校は、落ち着いた環境で学習に取り組んでいます。また基礎的な知識も概ね身につけています。しかし、その知識を使ったり他の生徒の意見を聞いて、自分の考えを表現する力に課題があります。これをうけて、総合的な学習の時間、道徳、特別活動の時間を通して、話し合いの活動を充実させ、お互いの考えを聞き、それを活用して自分自身の考えを表現する力を伸ばしていきます。

○ 学習状況に関する調査（抜粋）

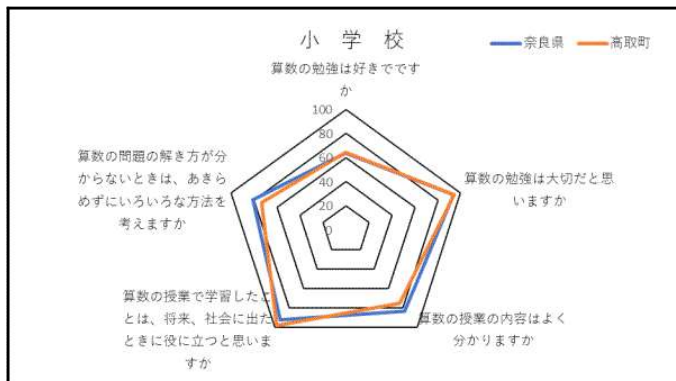
国語



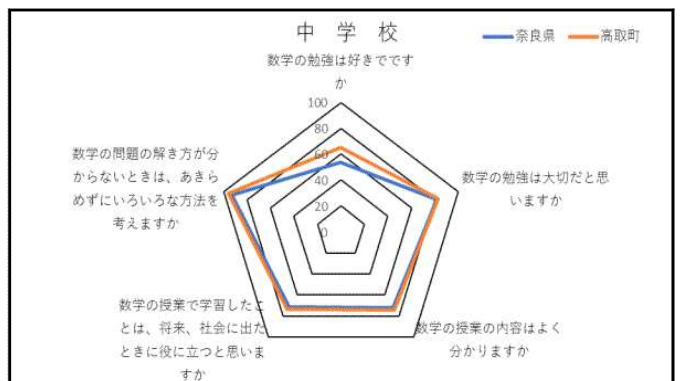
国語



算数



数学



- ・ 小学校は、「国語・算数は好きか。」の調査項目が、県平均に比べて低くなっています。児童に学習への興味や関心をもたせることが大切だと考えられます。
- ・ 中学校は全般的に県平均を上回っている項目が多いですが、「国語の授業の内容はよく分かるか。」という項目と「文章で回答する問題で、最後まで回答を書こうと努力したか。」という項目で県平均を下回っています。このことから、国語の授業やその他の学校活動を通じて一層の文章力の向上を図っていきます。

○ 高取町の児童生徒の学習と生活の充実のために

今回の学力学習状況調査の結果を踏まえ、これからの時代に求められる資質能力を身につけ能動的に学び続ける高取町の子どもたちの育成のため、学習と生活の充実を図り以下の点に重点を置きこれまで以上に取組を進めます。

- ◇ 基礎的・基本的な学習内容を確実なものとし、思考力・判断力・表現力を高める指導の推進
  - (1) 小中の連携をより推進し、子どもたちの課題を共有した一貫した取組
  - (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
  - (3) ICTをより効果的に活用した個別学習と協同学習の実践
  - (4) 読書の楽しみを知らせ、読書の質を高めていくための読書活動の充実
- ◇ 子どもの自尊感情（自己肯定感、自己有用感）を育てる取組の推進
  - (1) 個に応じた学びの展開と「わかる授業」づくり
  - (2) 自信や成就感を持たせるために、道徳教育や特別活動などの取組の充実
  - (3) 将来展望をもち自立に向けたキャリア教育の推進
- ◇ 子どもの生活習慣を見直し、家庭学習や読書週間の定着を図るために家庭との連携を推進
  - (1) 基本的な生活習慣や生活リズムの確立の大切さの啓発
  - (2) 「家庭学習の手引」等を活用した家庭学習や自主的・計画的な学習の意識付け
  - (3) テレビ、ゲーム、スマートフォンなどの使い方などの家庭のルールづくりの啓発